

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 2 区分

【発行日】平成 18 年 4 月 6 日 (2006.4.6)

【公開番号】特開 2000-230582 (P2000-230582A)

【公開日】平成 12 年 8 月 22 日 (2000.8.22)

【出願番号】特願 平 11-43662

【国際特許分類】

F 1 6 D 41/06 (2006.01)

【F I】

F 1 6 D 41/06 D

【手続補正書】

【提出日】平成 18 年 2 月 14 日 (2006.2.14)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 2 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 2 3】

更に、上記外輪 2 3 の軸方向両端部内周面と上記各外側内輪 2 4、2 4 の外周面との間の隙間は、それぞれシールリング 3 1、3 1 により塞いでいる。これら各シールリング 3 1、3 1 は、それぞれ芯金 3 2 と弾性材 3 3 とにより構成しており、上記外輪 2 3 の両端部内周面に、上記弾性材 3 3 の外径を弾性的に縮めた状態で、内嵌支持している。そして、各弾性材 3 3、3 3 にそれぞれ複数本ずつ設けたシールリップの先端縁を、上記外側内輪 2 4、2 4 の中間部外周面、及び上記各外輪側鏝部 2 7 a、2 7 b の内側面に、摺接若しくは当接させている。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 4

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 4】

尚、上記くさび角 θ が、 $\theta > 2 \tan^{-1} 0.3$ の関係を満たす様にする為には、円筒状隙間の直径方向厚さ H と各ローラ 3 の外径 D_3 (図 2) との比 (H / D_3) と、これら各ローラ 3 の転動面と接する各凹部 9 a の一端部の曲率半径 R_{9a} と外輪 2 3 の内径 D_{23} (図 2) との比 (R_{9a} / D_{23}) とを、それぞれ所定値よりも小さくする必要がある。例えば、上記外輪 2 3 の内径 D_{23} と上記各ローラ 3 の外径 D_3 との比 (D_{23} / D_3) を 1.0 とし、上記各凹部 9 a の一端部の曲率半径 R_{9a} と上記各ローラ 3 の外径 D_3 との比 (R_{9a} / D_3) を 0.1 とした場合に、上記比 H / D_3 を 0.887 よりも小さくすれば ($H / D_3 < 0.887$)、 $\theta > 2 \tan^{-1} 0.3$ である上記くさび角 θ を得られる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図 8

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 図 8 】

